

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

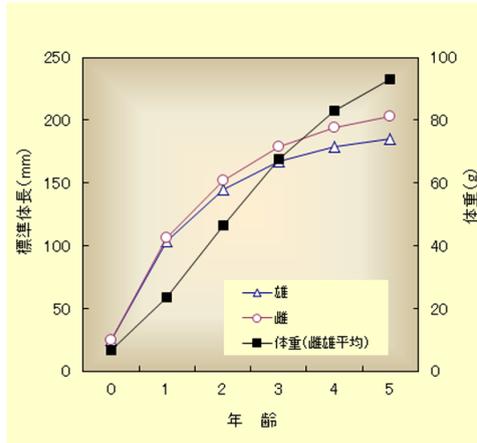
系群名 日本海北部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 5歳（年齢および年級はふ化した年を起算年として表記）
成熟開始年齢： 雄：1歳（100%）、雌：2歳（100%）
産卵期・産卵場： 12月上・中旬、主に秋田県沿岸の藻場
索餌期・索餌場： 成魚は春～夏、主に新潟県以南の沖合で索餌、未成魚は不明
食性： 端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類、魚類
捕食者： 大型魚類（マダラ等）

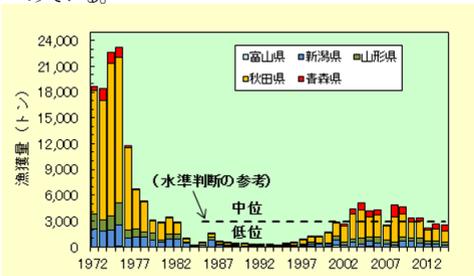


漁業の特徴

秋田県およびその隣県の沿岸域では、産卵・接岸時のハタハタを対象とした定置網、底建て網、刺網で漁獲され、それらの漁獲が全体の約5割を占める。一方、春季や秋季および冬季産卵期前後は、青森県～富山県において小型底びき網(小底)、沖合底びき網(沖底)により漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は、2万トン程度あった1970年代前半から1980年代にかけて急激に減少し、1984年には206トンに至り、1990年代前半は低迷した。1995年から徐々に増加し、2003年以降は秋田県で自主的に漁期短縮がなされた2007年を除いて3千トンを上回っていたが、2010年以降減少して、2014年は2,573トンであった。県別では秋田県が5～6割を占めている。



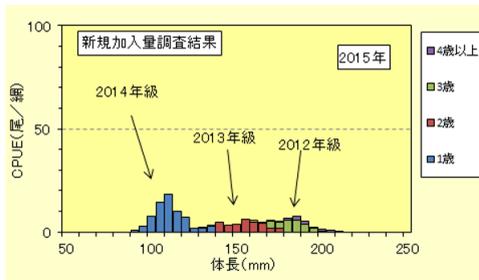
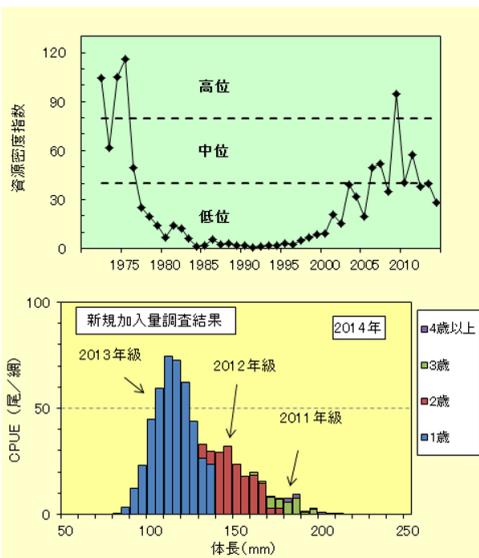
資源評価法

沖底の資源密度指数に基づき、資源状態を判断した。なお、漁獲量には定置網の情報が含まれていることから、水準判断には漁獲量も参考にした。また、調査船による新規加入量調査ならびに漁獲物の体長組成に基づき、近年の年齢組成および各年級の豊度を推察した。

資源状態

沖底の資源密度指数は、1995年以降増加し、2009年には94.7となったが、2010年以降は減少傾向にあり、2014年は28.3であった。資源水準の境は、1972～2014年の資源密度指数の最高値およそ120を三等分した低位と中位の境を40、中位と高位の境を80とした。また、2014年度評価まで低位と中位の境であった漁獲量3千トン水準判断の参考値とした。2014年の資源密度指数の値は28.3で、2014年の漁獲量は2,573トンであったことから、資源水準は低位と判断した。直近5年(2010～2014年)の資源密度指数から、動向は減少と判断した。また、新規加入量調査結果で、2013年級は1歳時には多かったが2歳時では少なく、2014年級は1歳時は少なかった。これらのことから、2016年に漁獲の主体となる2013、2014年級の豊度はいずれも低いと推察された。





管理方策

資源水準は低位、動向は減少であり、2014年の資源密度指数は2012年から3年連続で40を下回っている。これらのことから、資源水準の回復を図るため、資源水準に合わせて、漁獲を現状よりも抑えることを管理目標として2016年のABCを算定した。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合 (%)	2016年ABC (百トン)
0.7・Cave3-yr・0.86	Limit	-	-	15
	Target	-	-	12

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大が期待される漁獲量
- ABC算定規則(2-1)に基づき、ABCは $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した。係数 α には標準値0.8を用いた
- 低位の水準決定方法を考慮した係数 δ_1 は標準値の0.7、 Ct は2012~2014年の平均漁獲量(Cave 3-yr)である2,511トン
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算をし、 k は係数(標準値の1.0)、 b とは資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間(2012~2014年))
- ABCは十トンの位を四捨五入した

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- 2016年に漁獲主体となる2013年級や2014年級の豊度は低い

管理方策のまとめ

- 資源水準が回復を図るため、資源水準に合わせて、漁獲を現状よりも抑えることを管理目標として、2016年ABCを算定

執筆者: 藤原邦浩・松倉隆一・後藤常夫

資源評価は毎年更新されます。